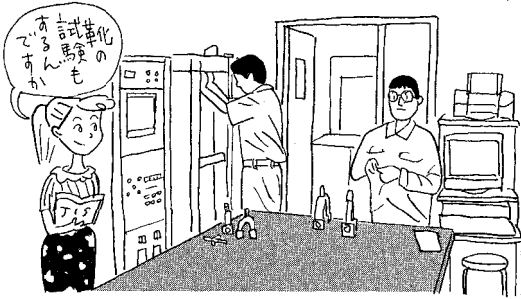


靴の強度試験



靴の強度試験について説明します。

① 表底のはく離強度



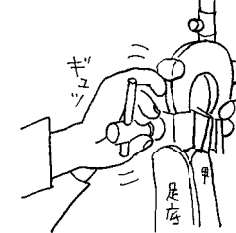
安全靴の試験方法がJIS T 8101に決められており、その中の表底のはく離試験について説明します。

②



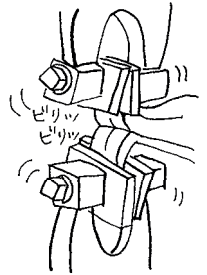
最初に試料のつま先部にカッターナイフで切り目を入れ、表底(足底)と甲革を少しはがします。

③



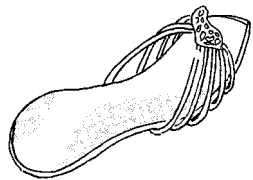
表底(足底)と甲革を引張試験機のチャックで各々つかみ、

④



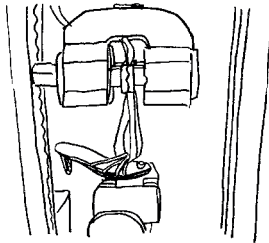
試験機のスイッチをいれて徐々にひがします。

⑫ 甲バンドの引抜強度



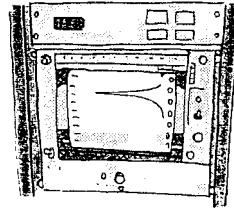
さらに、サンダルの甲バンドの引抜強度についても説明します。

⑬



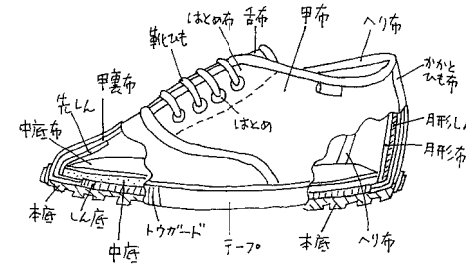
これも今までの説明と同じで、甲バンドと本体部を別々にチャックでつかみ

⑭

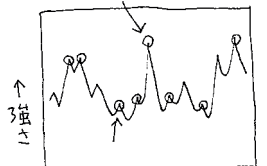


引張試験機のスイッチを入れて、甲バンドが抜けるまでの最大強度を測定します。

⑮ 各部の名称



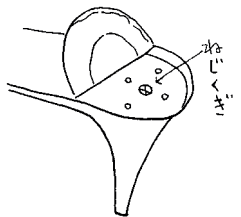
⑯



高いピーク74つと低いピーク4つの平均

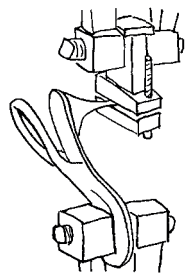
この時のチャートから求められる平均の強度が表底のはく離強度です。

⑩



実際にはヒールと本体はネジくぎで留められているので、相当に強い力になります。

⑪

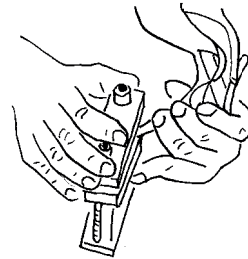


試験機のスイッチを入れ、かかとの取付部分が破壊されるまでの最大強度を求めます。

⑫



⑬



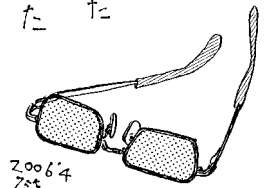
かかとと靴本体を引っ張り試験機のチャックで各々つかみます。

⑭ かかとの取り付け強度



JISには決められていませんが、ハイヒールのかかとの取り付け強度を測定することもあります。

後編
インフォメーションに
連載していた
ものを
まとめました



2006年
7月